資料７

「県民健康管理調査」検討委員会

第１回「甲状腺検査評価部会」　開催報告

日　時：平成 25 年 11 月 27 日（水）14:00～16:00

場　所：グランパークホテルエクセル福島恵比寿　2 階さくら

出席者：＜部会員　50 音順、敬称略＞
　　加藤良平、欅田尚樹、渋谷健司、清水一雄、清水修二、星北斗
　　＜福島県立医科大学＞
　　鈴木眞一 教授、志村浩己教授、鈴木悟教授
　　＜福島県＞
　　菅野裕之 保健福祉部長、馬場義文 同次長、
　　佐々恵一 県民健康管理課長、小谷尚克 同主幹

議　事：

１　部会長選出、副部会長指名
　　清水一雄　部会長　（部会員互選）
　　加藤良平　副部会長（部会長指名）

２　甲状腺検査について
　　説明 DVD 視聴（甲状腺と検査結果について／超音波画像について）
　　甲状腺検査説明会資料、第 13 回検討委員会資料説明（県）
　　【主な質疑（要旨）】
　　・（細胞診の実施判断基準）二次検査では、超音波診断基準に照らして細胞診の実施の有無を判断。（医大）
　　・（細胞診病理診断）医大病理部の複数の専門医師で判定。疑義がある場合は、学外の専門委員会に出して、複数の甲状腺専門の病理医にコンサルトしてもらっている。（医大）
　　・（手術の結果等の情報）、保険診療で対応されており、対応している医療施設からの情報提供を受けて集計等させていただいている。（県）
　　・サイエンスとリスクコミュニケーション（を別に、同時に）考える必要がある。結節・嚢胞といわれても一般の方はわからない。もう少しシンプルなメッセージをきちんと出していくことが非

常に大事。（部会員）

- チェルノブイリの経験から、（がん罹患が）上がるとしたら数年後だろうが、（先行検査の）その前のバックグラウンドとして評価しているという目的が十分認識されていない。（部会員）
- 役割分担、関係者の関われる場の整理をした上でご協力いただくという環境を作っていかないと、段々とフォローされる比率が落ちていき、目的が不明確になることが懸念される。（部会員）
- 二次検査後のフォローや手術の情報について、（本人等から）提供いただかないとわからないということだが、ここも何らかの形で整理が必要。これから先の議論の中で余計混乱を生むかと思うので、この場でも議論すべき。（部会員）
- 一番大事なのは地元できちっとフォローできる体制の確立。継続して同じ先生に診てもらうとか、あるいはフォローアップすることを考えた場合、県と市の連携が大事。（部会員）
- スクリーニングエフェクトというのがあるというのは、我々の医療の世界では一つの常識としてある。一方で甲状腺がんが増えているという主張をされ、論文を書かれている先生方もいるわけで、そちらを吟味しないというのは不公平。少しスケジュール感をもってこの議論を進めていくことが必要ではないか。（部会員）
- 今行っている検診の正当性が担保されているのか、内容についての精度管理というのがうまくいっているのか、そういったところを公にディスカッションをするというのがこの会の意義ではないか。（部会員）
- セカンドオピニオンというか、ダブルチェックというか、より多くの専門家の目で１つのデータを見て、分析するということはそれ自体に意味はあると思う。例えば甲状腺学会の中で、一般の学生等に検査をすれば相当数のがん発見がある等の見方が圧倒的な多数意見なのかどうか。異論が出てくる余地があるとすれば、その異論を聞いてみたい。甲状腺に限定して専門家の間での議論をすることは意味がある。（部会員）

※　次回開催については、３月を目途に調整することとなった。

以上